

学力向上に効果のある取組事例

別府市立大平山小学校

⑰ 校内研修などによる授業改善

取組の具体①

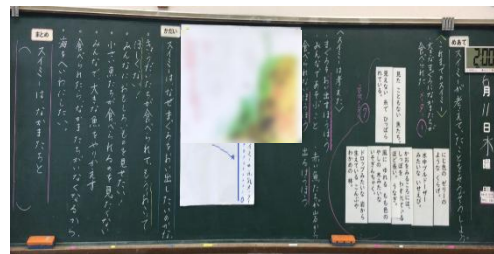
自らの授業や日常の指導に生かす授業研究

研究主題「自他の思いや考えを大切にし、主体的に学び合う子どもの育成～“考えの持たせ方の工夫”を取り入れた、国語・物語文の授業づくりを通して～」をもとに、授業中に見られた子どもたちの姿から子どもの姿を支えた指導の工夫を共有し、整理している。

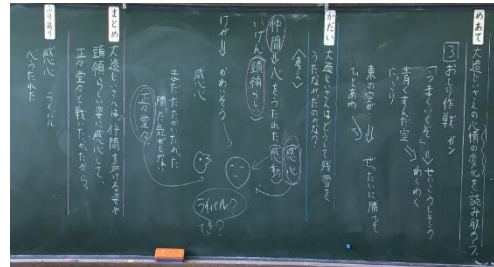
2年「スイミー」(6月)の全体授業検討会での成果と課題、改善点をもとに、5年「大造じいさんとガン」(10月)では、情景描写に着目させる発問や子ども同士をつなぐ問い返しなどにより、子どもが文章事実に基づいた根拠ある発言が多く出された。

授業研究を通して、教員が、「対話を生み出す問い返し」などを意識して授業を構想するようになり、子どもに考えを持たせるための授業設計が日常的に行われるようになってきた。

2年「スイミー」(6月)の板書



5年「大造じいさんとガン」(10月)の板書



取組の具体②

事実解釈型の事後検討会による 授業を多面的・分析的に捉える視点の拡幅

全体研究授業では、事前に「事実解釈型」の事後研究会についての校内研修を行い、授業者や参観者の「授業を見る目」を拡幅化することや、教師が持つ「子どものエピソードの束」を豊かにすることを目的として行った。

事実解釈型の検討会等を通して、授業を多面的・分析的に捉える視点が学校全体に共有されつつある。従来の感想を中心とした協議から、児童の思考過程や学びの変容に着目した協議へと質が高まり、教職員相互の学び合いが活性化した。授業を多面的・分析的に捉える視点が拡幅し、教職員が主体的に学ぶ姿は児童の学びの姿にも反映されている。

事実解釈型で検討したグループシート

